

活 動 歴

氏 名 八田 友和
所属センター名 関西センター

略歴

学位：修士（学校教育学）（兵庫教育大学大学院）

所属：学校法人創志学園 クラーク記念国際高等学校芦屋キャンパス 教諭（2018年4月～現在）

特定非営利活動法人（NPO 法人）ちゃいれじ 理事長（2018年4月～現在）

国立歴史民俗博物館 博学連携研究員（2019年6月～現在）

免許：中学校社会科専修免許状（兵庫県教育委員会）

高等学校地理歴史科専修免許状（兵庫県教育委員会）

高等学校公民科専修免許状（兵庫県教育委員会）

研究キーワード：社会科教育、社会教育、博物館教育、博学連携、歴史系ワークショップ、学校資料

実践・研究歴

年月又は年度	仕事・実践・調査・研究の名称、報告・論文名等のタイトル、発行年も記載	特記事項（その実践・研究の特記すべきことを記載。特技・資格等を活用した場合はそれを明記。）
2016年 2017年 2018年	<p>学校教育と博物館の関係について研究</p> <p>① 「学校教育における博物館活用はいかに行われるべきか」『奈良大学教職課程報告』(6)20-31</p> <p>② 「学校教育における博物館活用の実態と課題」『日本生涯教育学会論集 38』 pp.51-60</p> <p>③ 「生徒指導における博物館活用の可能性」『神院大生徒指導研究』(3)pp.80-84</p> <p>④ 「博学連携が子どもたちのキャリア形成に果たす役割と課題」『日本生涯教育学会論集 39』 pp.91-100</p>	<p>②および③については、研究の概要を「博物館の教育」「博学連携が子どもに与える影響」「学校教育と博物館の関係」という3つのテーマに分け、『生涯学習研究 e 事典』に執筆を行った。</p> <p>加えて、③の研究については、兵庫教育大学大学院より学会発表奨励金の給付を受けた。</p> <p>②・③・④の研究成果を活用し、2018年度に勤務校において、『思い出博物館常設展示図録－昭和なつかし館－』を作成・発行した。</p>
2019年	<p>学校資料の保存・活用について研究</p> <p>⑤ 「学校資料の教材化を模索して－集合写真の活用を事例に－」『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』(56)pp.33-36</p> <p>⑥ 「学校資料の教材化を模索して②－絵葉書の活用を事例に－」『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』(58)pp.14-18</p> <p>⑦ 『みんなで活かせる！学校資料－学校資料活用ハンドブック－』学校資料研究会発行、(分担執筆：第1章2節・第2章2節) ほか</p>	<p>⑤・⑥に続いて、2019年10月より、『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』において連載を行っている。詳細は、以下のURLからご確認ください。</p> <p>https://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/</p> <p>なお⑦の取り組みについては、学校資料研究会ホームページをご確認ください。</p> <p>https://gakkoshiryo.jimdofree.com/</p>

<p>2018年</p> <p>2019年</p>	<p>社会科教育における授業開発・実践</p> <p>⑧ 「新学習指導要領と歴史教育」『関西教職教育研究』(3)pp.34-45</p> <p>⑨ 『物質資料の変遷から社会構造を認識する中学校社会科授業開発』(兵庫教育大学大学院学位論文)</p> <p>⑩ 「教科における生徒指導を充実させるための一考察」『神院大生徒指導研究』(5)pp.14-22</p> <p>⑪ 「原始・古代史学習で利用可能な編年分布図の開発」『学校教育コミュニティ』(9)pp.15-18</p> <p>⑫ 「分布図から時代の特色と転換を理解する原始・古代史授業開発－小単元「残されたモノから古代社会のしくみを探れ！」を手掛かりに－」『兵庫教育大学学校教育学研究』第32巻、pp.143-152</p>	<p>⑨は、兵庫教育大学大学院学校教育学研究科教科教育実践開発専攻社会系教育コースに提出した学位論文(修士論文)である。これを受け、修士(学校教育学)を授与された。</p> <p>⑩および⑫は兵庫教育大学大学院同窓会より、「大学院同窓会会員と大学教員との共同研究助成金」をいただき、兵庫教育大学の山内准教授と共同研究を行った研究成果を取りまとめたものである。</p>
<p>2018年</p>	<p>歴史系ワークショップの開発・実践</p> <p>⑬ 「手作り真弧ワークショップー「遊びの連続」が織りなす歴史系ワークショップの実践」『日本生涯教育学会論集39』pp.145-152</p>	<p>歴史系ワークショップの活動に際しては、生涯学習コーディネーター・生涯学習上級コーディネーターの資格を活用している。</p> <p>なお、⑬で報告を行ったワークショップについては、池田市立歴史民俗資料館や京都文化博物館、飛騨高山まちの博物館など、関西圏を中心に企画・実施している。</p>

所属学会：日本生涯教育学会、日本子ども学会、日本デジタル教科書学会、日本ミュージアム・マネジメント学会、関西教育学会、日本教材学会、社会系教科教育学会、考古学研究会

受賞歴：2019年12月 日本生涯教育学会 会長賞

題目「高校生による博物館図録の作成ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践的研究」

社会貢献活動

1、歴史の教科書に載っている資料を触って・持ち上げてみよう！(2017年11月23日)

【講師】兵庫県生涯学習インストラクターの会 阪神ブロック 11月公開講演会

2、クリスマスから歴史を感じる(2017年12月3日)

【講師】兵庫県生涯学習インストラクターの会 阪神ブロック 12月公開講演会

3、チョコレートで塗金鏡を作ってみよう！(2018年2月17-18日)

【講師】木目遺跡研究会(熊本県球磨郡あさぎり町免田保健センター)

4、縄文土器づくり(2019年5月7日)

【講師】大津市立比叡平小学校

ほか